第21回 関西チアリーディング選手権大会 出場

Housenka Community Club since 2001.1.1
HCC TIMES
Vol.109
2012 7
http://www.sg-h.com

NPO法人 SG博友会
〒560-0085 豊中市上新田3丁目10番35号
TEL:06-6444-3030 FAX:06-6444-3554
編集元 H.C.C事務局 佐々木義治

6月17日、大阪府立体育会館で開かれた、第21回関西チアリーディング選手権大会兼日本選手権地区予選で「豊泉家北緑丘」チアリーディングクラブ「FRONTIERS（フロンティアーズ）」が昨年に続いてエキシビジョン演技を披露。感動を誘って喝采を浴びました。

メンバーは最高齢90歳をはじめ80代の入居女性7人。日ごろの練習ではそこに、入居者家族の女性1人と、クラブ発足に力を貸し、発足直前の発病で自らも車いす生活になってデイサービスに通う福本紘・梅花女子大学名誉教授が黒1点として加わる。

「FRONTIERS」の結成は2010年10月。目標を持つことで、車いすの入居者に刺激を与えられるのではないか」と考えた。指導はチアリーディングではトップクラスの梅花女子大学（茨木市）。福本紘教授から同大学チーム「RAIDERS」の顧問で、日本チアリーディング協会関西連盟副理事長の三浦恵子名誉教授を紹介されてアドバイスを受け、ホームでも実演もしてもらっている。

それを見る入居者たちの生き生きした表情。現在は三浦教授の教え子で同大学職員の福元和香奈さんらボランティアのOG5人が交代で毎月2～3回、ウォームアップから発生や基礎練習を指導。車いすのメンバーが待ちかねたように集まってくる。

そしてエキシビジョンの晴れ舞台には、5人がそろいのコスチュームで現れた。円陣を組み「エイエイオー」でスタート。マイケル・ジャクソンの「I WANT YOU BACK」に乗り元気に特製のポンポンをうち振る。両手を挙げてVの字を描くハイブイ、下向きのローブイ、右手を突き上げるバンチアップなどのモーション（振り）もぴたりと決まる。「もっと笑って」と練習中に何度も注意された笑顔も満開。「ホウセンカ女子アゴーファイトウィン」のコール（掛け声）を響かせ、「ホウセンカフロンティアーズ！」の大声のアピールで90秒を締めくくると、大きい拍手の渦。

会場のあちこちで「一所懸命さに元気をもらった」の声が聞かれた。「FRONTIERS」は今年4月、協会関西連盟に正式に加盟した。三浦教授は「チアリーディングの愛好者は年齢を超えて広がっているが、高齢者の車いすチームは全国唯一」という。

朝日新聞シニア情報「フロンティアエイジ」7/3号抜粋

第6回 NEXTDOOR未来を語ろう会

市民総合センタークリエイトセンターにて第6回NEXT DOOR未来を語ろう会を開催しました。

本日はゲストにSF豊泉家経営戦略室より笹倉本部長、豊泉家コミュニティクラブより大神事業部長に来て頂きました。今回も自己紹介、バイオデータの紹介、田中会長と事務局への質問と進んで行きました。

質問内容は「今後のほうせんか病院について」や「会長のご趣味は？」などざっくばらんな質問もあり終始和やかなムードで会長とスタッフが気軽に話せる場になりました。

記者の私が一番印象に残ったのが「ホスピス」の問題について真剣に語って頂いたことです。「ホスピス」とは、終末ケアのことであり、終末期医療および看護のことです。延命処置を中心に処置するのではなく、患者の身体的苦痛や精神的苦痛を取り除き、生活の質の向上を図る治療をする施設のことです。

「ホスピス」は看護師の中でも、認知はしているが詳しく知らない方が多かったのが私の第一印象です。「ホスピス」は通常の看護とは視点が違うので、通常の看護師の方は知らない方も多いようです。その中、「精神的負担が多くなり大変そうなイメージ」と発表されている人がおりました。「ホスピス」は終末期の患者ばかりですので、入院後約1ヶ月半でお亡くなりになる事が多く、その都度精神的な負担になるからです。

私は「ホスピス」がQOLの部分から見て、とても良いものと考えていましたが、医療現場の視点で考えると、とても精神的負担が多い仕事をして頂いているのだなと改めて考えさせられました。

未来を語ろう会も常連の人も増え、討論内容も濃い物になってまいりました。今後もHFCとして、明日の「ほうせんか病院」につながる会に少しでも近づけられるよう頑張ります。

記者：中西 龍平

新卒採用最終面接

先日、2013年度新卒採用の第6回最終面接試験に司会として参加いたしました。面接官は阿久根運営本部長、松浦管理本部長で、面接受験者は1次試験の書類選考、2次試験の筆記試験及び面接試験を突破した学生でした。

この日の面接受験者は3名で、さすが最終面接、かなりの緊張感が伝わってきました。開始の挨拶が終わった後、松浦本部長から学生に対して面接が開始されました。

面接では社会や仕事に対する心構え、学生生活の経験に対しての問いかけ、受け答えのキャッチボールを繰り返すことで次第に緊張もほぐれていったように感じました。

続いて阿久根本部長の面接では、豊泉家の質、スタッフの質を高めていくということから話を切りだし、福祉や医療の専門的な質問が展開されました。受験者の中には福祉学科の学生もいたことから、返答に対してさらに突っ込んだ質問をされながらも自分の言葉で的確に考えを伝えるという場面も見られました。

今回の面接試験に同席しまして、学生に対して求めるレベルの高さを改めて認識できました。新卒で入職されるスタッフは、将来の豊泉家を担うスタッフとしてこれから更にレベルアップしてもらいたいと思います。

安定した数の学生に最終面接へ進んでもらうためにも、1次試験や2次試験の受験者を増やしていけるよう、採用活動に励んでいきたいと思います。

記者：北川 晶大

2012年度入社新卒上司インタビュー

松風 結己さん（左） 黒川 智史さん（右）

第一回目

記者「インタビュー第一回目は北緑丘に勤務する黒川さんとその上司の松風さんです。黒川さんが携わる特養の生活相談員とはご入居者の生活上のケア、そのご家族のケアを行う北緑丘コミュニティで大変重要な役割です。さて、入社から早くも二ヶ月が経過しましたが、豊泉家に勤務した感想をお聞かせ願えますか。」

黒川氏「良い意味で裏切られました。まだ失敗も多い日々ですが、そのたびに周りの方が私を気にかけて下さり、こんなにも温かい環境だとは入社前には想像しておりませんでした。」

記者「近年、大卒者の就職内定率が低迷しております。そのなかでも恵まれた環境で働けることは大変良い社会経験となるのではないでしょうか。次に松風さんにお聞きします。黒川さんに望んでいる人物像はなんでしょうか。」

松風氏「特養の生活相談員として、試行錯誤をしながら豊泉家グループの生活相談員として一年後には全ての業務を黒川君が担えるように指導します。二年目からは黒川君が自らで考え学び、そして技術を日々磨くことを期待します。」

記者「松風さんは黒川さんに大変期待されておられるのですね。では、黒川さんへアドバイスがありましたらお聞かせ下さい。」

松風氏「豊泉家MORAL第一章第四条「トライアル&エラー」そして名誉挽回でもう一度」の理念を持ち、知恵・情熱・スピードを業務に取り組んでご利用者ご家族・スタッフから愛されるような人物になっていただきたい。」

記者「上司の松風さんから具体的な人物像を聴くことができ、黒川さんの今後の仕事の目標が明確となったと思います。それでは最後に黒川さんから同期の方へ一言お願いします。」

黒川氏「所属している場所は違いますが、お互いに大変さは共有できるものがあると思います。そのため互いに支えあい・助け合いがんばっていきましょう。」

記者「黒川さん、松風さんありがとうございました。」

第二回目

記者「インタビュー第二回目は北緑丘に勤務する松尾さんとその上司の永山さんです。松尾さんはどのような業務に携わっているのかご説明していただけますか。」

松尾氏「私はケアワーカーとして業務に携わっています。ケアワーカーの役割とは、日常的な介助業務や、介護を必要としている人たちへの心理的なケアがあります。コミュニケーションをとり、話を聞いてあげたりすることで、心理的に安定した生活を送れるように知識・技術・コミュニケーション能力・判断力が必要な仕事です。」

記者「詳しくご説明をありがとうございます。次に上司の永山さんにお聞きしますが、今後担ってほしい業務はどのようなことがありますか。」

永山氏「勤務して二ヶ月程度なので、まずは毎日の業務を正確にこなして『ホウレン・ソウ』を意識して業務に集中してほしいです。そして、将来的には食事係・排泄係などの係を担当していただきたいと考えています。」

松尾 ちひろさん（左） 永山 祐太さん（右）

記者「具体的な人物像を松尾さんに描いておられるのですね。松尾さんは、豊泉家に入社して良かったとはありますか。」

松尾氏「三週間の座学から始まり、一ヶ月間のOJT研修でみっちり指導していただけたことです。」

記者「なるほど。HFCでも研修スタッフなどを企画しておりますのでそちらに関しても今後ご説明させていただきます。では、永山さんから松尾さんに対してアドバイスをいただけますか。」

永山氏「ローテーション勤務のため、息抜きをキチンとしてもらいたいです。勤務が続きますと負担が蓄積してきますので、息抜きをする機会を意識して設けてほしいです。」

記者「そうですね。松尾さん現在、息抜きする機会を設けていますか。また、設けているのでしたら、それはどのような方法ですか。」

松尾氏「睡眠を多くとってリフレッシュしています。」

記者「たしかに。それもひとつの解消方法ですね。最後に松尾さんから同期へのメッセージをお願いします。」

松尾氏「みなさん、体に気をつけて元気で頑張りましょう。特に私と同じような環境の方は腰痛に気を付けてください。」

記者「これでインタビューを終了します。永山さん、松尾さん、ありがとうございました。」

記者：小央 悟史

第22回SF豊泉家ボウリング大会

第22回を迎えましたボウリング大会ですが、今回は総勢77名の方にご参加いただきました。外部企業の皆様にもたくさんご参加いただき、非常に白熱した大会となりました。

その中でも全員が男女ごとの上位8位以内という抜群のチームワークで、りそな銀行の西村様と山本様、営業本部の村野ソーシャルワーカー、桃山台コミュニティの石川キャプテンチームが見事優勝を勝ち取りました。

また今回は、ゲームの途中にストライクゲームを皆様で同時に行っていただき、緊張感に包まれた雰囲気の中、見事10名の方がストライク賞を獲得しました。チーム問わず投球後のハイタッチが数多くみられ、交流を深めることができました。

■チーム優勝
りそな銀行
西村様 山本様

■チーム準優勝
福祥福祉会営業本部
村野ソーシャルワーカー
桃山台コミュニティ
石川キャプテン

■チーム準優勝
りそな銀行
真子様 岡本様
福祥福祉会法人本部
加藤常務理事
豊泉家ヘルスケア治療院
延山さん

■男子個人優勝
福祥福祉会営業本部
村野ソーシャルワーカー

■女子個人優勝
豊泉家ヘルスケア治療院
延山さん

■男子ベストグロス賞
SG本部
日野管理本部長

■女子ベストグロス賞
桃山台コミュニティ
吉武ケアワーカー

記者：石倉 慎也

フェロークラブ 慶弔のお知らせ

住之江コミュニティプルーWAVEでご活躍の橋本秀明CWに5月2日、めでたく第二子（男児）が誕生しました。

お名前は宗典（しゅうすけ）くん、お兄さんと共に今日もすくすくと成長されています。

「2人目ということで父親としての慣れもあるのか、産まれた瞬間から、より深く我が子を想う気持ちが芽生えてきた」と喜びの声をお聞きすることができました。

本当におめでとうございます。

記者：石倉 慎也

8・9月行事案内

8月3･4（金･土）
新北島町内会盆踊り出店

8月4･5（土･日）
豊中まつり出店

8月17･18（金･土）
R&D研究発表会

8月25･26（土･日）
ファミリー交流会

9月17（月）
百歳クラブ「名豊会」

6月30日～7月1日 豊泉家コムレイズ 秋季大会準備合宿

豊泉家コムレイズで秋季大会の準備をするため六甲山荘にて合宿を行いました。

合宿当日は雨が凄く、六甲山荘に向う道も濃霧で、一時はどうなるかと思いましたが、会場に着くと雨はやみ、霧があったおかげで虫が少なく過ごしやすい環境でした。合宿の内容は、春季大会の反省・新入部員の紹介・秋季大会レギュラーメンバーの選定・今後の活動内容など中身の濃いミーティングを行いました。

その後、加藤監督からサプライズで第1回「監督賞」の授与が行われ、横川選手兼助監督が選ばれました。

その後はBBQ・卓球大会と楽しみ、新入部員とも交流ができ、7月22日の秋季大会へ向け結束力を高め、有意義な合宿が行えました。

記者：石倉 慎也